

# 火の気がない無人のビニールハウスから出火!?

全国的に例年より暑さを感じる今年は、予期せず突然、局地的大雨が降る確率が高くなることが予想されています。そのようなときに注意したいのが、「収れん火災」です。

雨がやんで天気が回復し、ビニールハウスの天井部分に水が溜まっている場合があります。この溜まった水がレンズとなって太陽光を収束させ、枯れ草などが発火することがあります。これを「収れん火災」といい、ビニールハウスに限らず、身近で発生する可能性があります。

今回は、そんな「収れん火災」が発生する仕組みや過去の事例、防ぐためのポイントを紹介します。



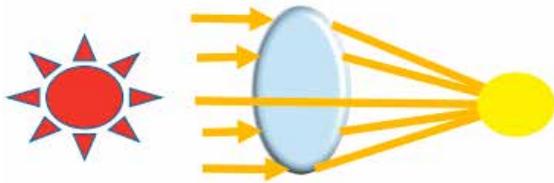
人知れず燃えていたビニールハウス



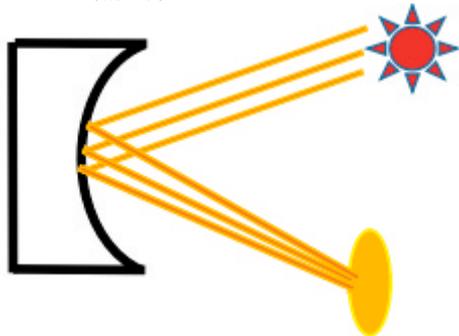
ハウスの天井に水が溜まった状況

## 2種類ある「収れん」

- 1 虫眼鏡のような凸レンズが光を直接収束するもの



- 2 凹面鏡のように光を反射させて一点に集めるもの



## 収れん火災を防ぐには

収れん火災は、太陽の高さや日光の当たる素材、季節や時間帯など、さまざまな要因の組み合わせで引き起こされる火災です。建物などの周囲で日差しの届く場所に、ペットボトルやステンレスボウルなどが置かれていないか、天気の良い日に家の内外を見回してみましょう。



## 過去の火災事例

- 家の出窓で育てている植物用に、水を入れたペットボトルを置いていたところ、それがレンズとなりカーテンを燃やした。
- 車のフロントガラスに貼られた吸盤やスプレー缶の底がレンズとなり、火災を引き起こした。



▲光を集めるスプレー缶の底

▼吸盤もレンズに



### 【令和4年町内の火災等発生状況】

発生区分	6月中	累計
火災	建物	2
	車両	0
	林野	0
	その他	2
警戒出動	3	12
救急出動	118	761
救助出動	2	5

図 益城西原消防署 ☎ 286 - 2119